

# 教育委員会だより

## ◎自分がされたら嬉しいことを相手にもしてあげたら…

子ども同士がけんかをして  
いる場面で、仲裁に入ると必  
ずといていいほど出てくる  
2人の言い分があります。  
「Aちゃんが先に嫌なことを  
してきた。だから、僕もAちゃ  
んが嫌なことをやり返したん  
だ」



「ちがう！Bちゃんが先にし  
てきた…」

いつまでも2人がこんなけ  
んかを続けていると、「憎しみ  
の連鎖」で他人を思いやる優  
しい心が芽生えてくることは  
ないでしょう。

中国古典「論語」に次のよ  
うな一節があります。

子貢（孔子の弟子）がたず  
ねした。

「ほんの一言で死ぬまで行え  
るものがありますか」

先生がいわれた。

「それは『恕（じよ）』だろ  
うね。自分にしてほしくない  
ことは、他人にもしてはなら  
ない（己の欲せざる所を人に  
施すことなかれ）」

「論語」は、2500年以上  
も昔、中国で孔子の弟子に  
よってまとめられ、紙のない  
時代で木や竹に書かれていた  
そうです。そして、長い年月  
の間に多くの書物が書かれ消  
えていく中で、現代もこうし  
て読み継がれていることを思

うと、この言葉は、「いつの時  
代でも人が行うべき常識」な  
のでしょう。

ただ、孔子には申し訳ない  
のですが、大人へ向けて人格  
形成真つただ中の子どもへは、  
時として次のように言ってい  
たらどうでしょうか。

「自分がされたら嫌なことを  
相手にするのはなくて、自  
分がされたら嬉しいことを、  
相手にもしてあげよう」

その行為はもしかしたら、  
相手にとっては嫌なこと、あ  
りがた迷惑なことかもしれま  
せん。しかし、人間関係が希  
薄だと言われる今だからこそ、  
積極的に「自分がされて嬉し  
いことを相手にもしてみる」  
ことは大切ではないでしょ  
うか。

そして子どもは、本当に喜  
んでもらえた成功体験、「あり  
がた迷惑」になった失敗体験  
を味わうでしょう。そんな体  
験を積み重ねながら思いやる  
ことの大切さを学び、また自  
分とは違う人間を知り、その  
個性を本当に認めることがで  
きる大人になってくれればと  
願います。（学校教育課）

## まちの文化財 ⑳

### 八鹿能舞台



平成13年10月、八鹿観世能が  
八鹿文化会館で初めて開催され  
ました。第2回は養父市発足を  
記念して平成16年12月に開かれ  
いづれも観世流の3世・観世喜  
之氏（重要有形文化財総合指定  
保持者）を招いて演じられまし  
た。

見山のヒノキで制作したと言わ  
れています。大正12年に竣工し  
たばかりの養父郡公会堂で組み  
立てられ、能「羽衣」（写真）  
と「高砂」が演じられました。  
西村氏は八鹿に謡曲愛好会  
「清鐘会」を作り、観世氏らを  
招いて月に数度の例会を重ね、  
昭和12年に200回記念の能が、  
八鹿能舞台を利用して演じられ  
ました。

昭和30年に豊岡小学校体育館、  
昭和35年に豊岡高校で組み立て  
られ、2世・観世喜之氏によつ  
て能が演じられました。また、  
昭和42年には養父郡公会堂で組  
み立てられ能が行われました。  
この由緒ある八鹿能舞台を保  
存活用するために、八鹿能舞台  
保存会（会長 田村忠夫さん）  
が結成されました。平成9年10  
月2日、保存会と八鹿公民館に  
よって八鹿能舞台が八鹿文化会  
館ホールで初めて組み立てられ、  
平成13年に開催された第1回八  
鹿能は、34年ぶりに復活した八  
鹿能舞台となりました。

本年10月20日、兵庫県が推進  
する県民芸術劇場「八鹿能」が  
八鹿文化会館で行われます。今  
回も登場する八鹿能舞台は、83  
年間も但馬の能楽の中心施設と  
してひのき舞台を演出していま  
す。（社会教育課）